



日本女医学会誌

復刊第 196 号
2008 年 10 月 25 日発行
題字 吉岡彌生

巻頭言

責任の所在

副会長 津田喬子

最近の出来事には、責任の所在の不透明さが目立ちます。社保庁の年金処理問題、アスベスト禍、大分県職員採用試験、医療崩壊、事故米流通など枚挙にいとまがありません。私たち日本人が備えていた、信頼に応える、責任を果たすという心を、どこに置き忘れて来たのでしょうか。個の、家の、組織の、社会のそして国の責任を、それぞれの立場で再び取り戻さなければならないと感じます。

そのような中で、(社)日本女医学会の責任を考えてみました。

日本女医学会は 1902 年に創設されました。当時、全国で医術開業試験に合格した女医はわずか 200 名程度であり、女医の育成、地位確保を目指して第 1 回会合がこの年にもたれたのです。以来、100 年以上を経た今、日本の女性医師の数は飛躍的に増して、もはや女性医師の活躍なくしては日本の医療を推進でき

ないとさえ言われるようになりました。しかし、医療界における真の意味での男女共同参画社会の実現には至っておりません。

(社)日本女医学会は私たちの精神的拠り所であると同時に、時代を先取りするオピニオンリーダーとして、若い女性医師や次の世代を担う医学生がそのキャリアを継続できるように支援するメンター集団としての責任を担っています。

昨年度から始まった女性医師支援委員会活動、本年度の公的資金援助を受けて展開する子育て支援および長寿社会支援活動は、歴史ある本会こそが担い得る重要な活動と思います。9 月 21 日に女性医師支援委員会を中心に準備が進められ、開催された「医学を志す女性のためのキャリアデザインセミナー 2008」には、高校 1 年生の参加者もあり、実りある内容のセミナーとなりました。

日本女医学会誌 (第196号) もくじ

〈巻頭言〉 責任の所在 ……………津田喬子 (1)	行政職としての女性医師の働き方 ……………住友眞佐美 (9)
〈日本女医学会 第 27 回 学術助成研究報告〉	米国臨床研修の先に見えるものは? ……………新明裕子 (10)
造血器腫瘍における JAK2-V617F 変異の分子病態解明と	こころの平和と社会の平和 ……………水島広子 (11)
分子標的療法の開発 ……………大屋敷純子 (2)	女性のための「私のクリニックを開設して」
日本人非アルコール性脂肪肝の発症に及ぼす栄養素摂取量	……………平田雅子 (12)
と身体活動に関する疫学的検討 ……………中神朋子 (2)	第 23 回日本・アラブ女性交流について ……………橋本葉子 (12)
非代償期慢性膵炎患者治療前後における	大森安恵東京女子医科大学名誉教授が
安静時エネルギー代謝の変動 ……………柳町 幸 (3)	Sansum 科学賞を受賞 …………… (14)
〈委員会より〉 子育て支援委員会 ……………対馬ルリ子 (4)	私の好きな食べ物屋さん⑤ ……………二村芙美江 (15)
長寿社会福祉委員会 ……………山本繡子 (5)	〈支部だより〉 岩手支部 ……………山口淑子、斉藤恵子 (16)
会員動静 …………… (5)	大阪府女医学会活動報告 ……………吉馴茂子 (17)
〈医学を志す女性のためのキャリアデザインセミナー 2008〉	平成 21 年度日本女医学会総会予定 (案) …………… (18)
—キャリアもライフもピカピカに磨こう— を開催して	私の大学 ……………赤澤 (久藤) 純代 (18)
……………荒木葉子 (6)	書評『ノーフォールト』……………宮崎千恵 (19)
「女性医局」による女性医師支援 ……………長瀬淑子 (7)	理事会議事録 (6 月、7 月) …………… (20)
東京女子医科大学の「保育とワークシェアによる	寄付者一覧 …………… (23)
女性医学研究者支援」……………斎藤加代子 (8)	日本女医学会よりご案内 …………… (24)
ママでも救命救急医! ……………並木みずほ (8)	編集後記 …………… (24)

4月から新メンバーで船出した日本女医会丸は、小田船長を中心にベテラン副船長、機関長の舵取りと、若い機関士や甲板士の献身的な活躍で、目的地を目指して着実に進んでいます。海図上の目的地は会員

の皆様の希望を入れて、これからも書き加えられることとなります。皆様のご支援を受けて、1本筋の通った航跡を残したいと思います。



日本女医会 第27回 学術助成研究報告

造血器腫瘍における JAK2-V617F 変異の 分子病態解明と分子標的療法の開発

世田谷支部 大屋敷純子

昨年度は、私どもの研究課題「造血器腫瘍における JAK2V617F 変異の分子病態解明と分子標的療法の開発」に対し、日本女医会学術研究助成金を賜り誠にありがとうございました。これまでの研究の進捗状況についてご報告させて頂きたいと存じます。

1961年 Dameshek 博士は血球の増加を主徴とする慢性骨髄性白血病、真性多血症、本態性血小板血症などの病気を総称して慢性骨髄増殖性疾患と命名し、造血幹細胞の増殖異常として位置づけました。この中で慢性骨髄性白血病では分子病態や治療薬開発において進歩がめざましいのに対して、その他の疾患については長年不明の点が多かったのですが、2005年に真性多血症患者の90%以上に JAK2-V617F 変異が存在することが明らかになり、疾患特異的な体細胞の機能獲得型遺伝子変異として、俄然注目されるようになりました。そこで、私どもは慢性骨髄増殖性症候群84例について JAK2-V617F 変異を検索し、臨床症状、ことに血栓症との関係について検討いたしました。

JAK2-V617F 変異は真性多血症の92.6%に、本態性血小板血症の63.3%に検出されました。真性多血症において、JAK2-V617F 陽性患者では JAK2-V617F 陰性患者と比較して白血球数、血小板数の有意な上昇を認め、血栓症の発症に關しての注意が必要と考えられました¹⁾。一方、本態性血小板血症の JAK2-V617F 陽性患者では JAK2-V617F 陰性患者より有意に血栓症の合併率が高いという結果が得られました (JAK2-V617F 野生型群 1/18 vs JAK2-V617F 変異型 10/31: $p = 0.0308$)²⁾。以上より慢性骨髄増殖性症候群では JAK2-V617F 変異そのものが血栓症の危険予知因子となること、また経過中の血小板数コン

トロールが重要であることが明らかになりました。

分子標的療法を目指してこの分野は国内外の研究が精力的に行われておりますが、Dameshek 博士が半世紀前に提唱した疾患概念が遺伝子レベルでの異常として解明されていることに、今更のように血液学の奥深さを感じております。皆様のお力添えのお陰で今日まで血液学の研究を続けてこられたことに心より感謝し、この研究助成を励みとして今後も精進したいと思っております。最後に、日本女医会小田泰子会長をはじめ選考委員の先生方、東京医科大学理事長伊東洋先生ならびに血液内科の諸先生方に深謝いたします。

文 献

- 1) Ohyashiki et al., *Jpn J Clin Oncol*. 2008 38: 230
- 2) Ohyashiki et al., *Int J Hematol*. in press

日本人非アルコール性脂肪肝の 発症に及ぼす栄養素摂取量と 身体活動に関する疫学的検討

東女医学内支部 中神朋子

平成18年度日本女医会学術研究助成を賜りました研究課題「日本人非アルコール性脂肪肝の発症に及ぼす栄養素摂取量と身体活動に関する疫学的検討」の報告に際し、昨年から本年度にかけては、特に栄養素摂取量との関連について検討して参りました。ここにその結果を報告いたします。

非アルコール性脂肪肝(以下 NAFLD)はインスリン抵抗性と深く関連しており近年注目を集めています。我々は以前、NAFLDが年齢や肥満度から独立してメタボリックシンドロームの構成因子である糖・脂質異常に密接に關係していることを報告しました。一方、近年、国外から炭水化物の質のや量の指標となる glycemic index(GI)や glycemic load(GL)と代謝異常の関連が多く報告されています。また、魚に多く含まれる DHA や EPA に代表される長鎖 n-3 多

価不飽和脂肪酸がNAFLD進展抑止に効果的であったとする報告があります。日本人では欧米と比較し、米飯が主食で魚の摂取量が多いという特徴があり、特にGI、GL、長鎖n-3多価不飽和脂肪酸に着目しNAFLDと栄養素摂取量との関係を検討しました。

埼玉県済生会栗橋病院の人間ドック受診者1,881名を対象に、簡易型自記式食事歴法質問票を使用し、約1カ月間の食事内容を調査し、非脂肪肝群とNAFLD群の間で食品とそれに由来する栄養素の比較を行いました。その結果、GI、GL、長鎖n-3多価不飽和脂肪酸は段階的にNAFLDのリスクと関連することが示されました。具体的には、主食を白飯(GI=77)から麦飯あるいは五分づき飯(GI=66)とすることで、NAFLDのリスクを40%減少させる可能性が示されました。また、魚の摂取量に関しては、日本人平均は1日80g程度ですが、90gに増加させることでNAFLD予防に効果的である可能性が示されました。

日本人において、炭水化物の質や長鎖n-3多価不飽和脂肪酸と、NAFLDの関係を検討した研究は今まで報告がなく、学会発表(国内・国際学会)の上、現在、原著論文を英文誌に投稿中です。また、身体活動との関連についての検討は現在進行中で来年度に発表の予定です。今回、日本女医会の助成をいただきまして本研究を継続することができ心より感謝しております。

最後になりましたが、日本女医会の小田泰子会長、橋本葉子前会長をはじめ、選考委員の先生方、また共同研究者である東京大学の佐々木敏先生および関係各位に心より感謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

文 献

- 1) Oya J, Nakagami T, Jimba S, Sasaki S, Kasahara T, Wasada T, Iwamoto Y. Glycemic index, glycemic load and non-alcoholic fatty liver disease in Japanese adults. *Diabetologia* (Supple 1) 50: 158.

謝は変動し、REE(安静時エネルギー消費量)の実測値と予測値は一致しない事が多く、特に栄養障害を呈する患者の治療においてはこのエネルギー代謝の変動を考慮する必要があります。手術、熱傷などの侵襲時は高サイトカイン血症やカウンターホルモン分泌亢進によりREEは亢進し、飢餓や神経性食欲不振などによる長期間の低栄養状態では生体の適応反応としてのREE低下がみられます。また、肝硬変患者では全身状態が比較的安定していれば正常代謝状態ですが、15~20%が代謝亢進、15~20%が代謝低下を示すと報告され、同一疾患でも代謝状態が異なる場合もあります。

今回検討した結果、非代償期慢性膵炎患者の未治療時のエネルギー代謝には糖質の利用障害と消化吸収障害の両者が影響を与えているものの、消化吸収障害による低栄養状態がより強い影響を与えていることが示唆されました。PEM(蛋白-エネルギー栄養不良)が軽度である場合は、消化酵素補充およびインスリン投与による栄養状態と血糖コントロール改善でREEも改善します。しかし、PEMが高度である場合、消化酵素補充とインスリン投与による栄養状態と血糖コントロール改善は治療直後の代謝亢進、「refeeding syndrome」のような状態をきたす可能性があることが示唆されました。したがって、著明な低栄養状態を呈する非代償期慢性膵炎患者ではREEをモニタリングしながら過剰なエネルギー投与を避ける必要があると考えられました。この結果は今後臨床の現場において利用していくことが必要であると考えています。現在、英文投稿の準備を進めているところです。

最後に、日本女医会会長の小田泰子先生をはじめ選考委員の先生方、ご推薦頂きました白鳥敬子教授(東京女子医科大学)、本研究の共同研究者であります中村光男教授(弘前大学医学部保健学科)、丹藤雄介先生(弘前大学医学部内分泌代謝内科)、および関係各位に改めて感謝申し上げますとともに、今後ともご指導、ご鞭撻の程お願い申し上げます。

非代償期慢性膵炎患者 治療前後における 安静時エネルギー代謝の変動

青森支部 柳町 幸

昨年度、日本女医会学術研究助成を頂きました。研究の進捗状況につきましてご報告いたします。

疾患罹患時それぞれの病態に応じてエネルギー代





子育て支援委員会

対馬ルリ子

子育て支援委員会は、2008年度から“十代の性の健康支援ネットワーク作り事業”を行っています。

これは、地域で親や教師が対応に苦慮する若者の性の問題について、健康支援・健全育成・犯罪防止の立場から地域の女医会会員が核となり、医療・保健・教育・警察組織を横断する支援ネットワークを構築するもので、2008年度は全国4箇所のモデル地区（札幌、盛岡、名古屋、岡山）でヒアリング調査と横断的連絡協議会の開催を行う予定です。

2008年度のモデル地区連絡協議会の開催予定日と担当委員は

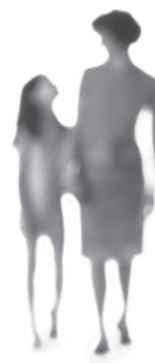
- ① 11月23日 札幌 担当 堀本江美先生
- ② 11月27日 盛岡 担当 齊藤恵子先生
- ③ 12月11日 岡山 担当 金重恵美子先生
- ④ 1月22日 名古屋 担当 瀧谷きよみ先生

ですが、ほかに委員として参加して下さる方として、鹿田儀子先生、津田喬子先生、早乙女智子先生等をお願いしております。8月24日には第1回の委

員会を招集し、委員の先生方から大変熱心な意見とさまざまなご提案をいただきました。

まずは、各地域の十代の妊娠、中絶、性感染症、デートDV、レイプ、その他の性犯罪等の実態について聞き取り調査をし、これらのデータをもとに、子どもの人権に配慮し、よりよい健康支援をしていくためには「誰が、どこで、どのように」サポートし連携すべきかについて、議論を深めていきたいと思ひます。

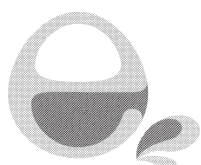
この事業には、たくさんの会員の方々のご支援・ご理解と、立場や組織をこえた広い連携が必要です。全国の先生方、どうぞよろしくご協力のほどをお願い申し上げます。



Julina®

新発売

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等につきましては、製品添付文書をご参照ください。



経口エストロジオール製剤 薬価基準収載
ジュリナ®錠 0.5mg

エストロジオール錠
指定医薬品・処方せん医薬品^{注1} 注1) 注意-医師等の処方せんにより使用すること

Julina® 0.5mg

資料請求先
バイエル薬品株式会社
大阪市北区梅田2-4-9 〒530-0001
<http://www.bayer.co.jp/byl>



Bayer HealthCare
Bayer Schering Pharma

(2008年9月作成)

JUL-08-4012



長寿社会福祉委員会

山本 纈子

当委員会は、独立行政法人福祉医療機構からの助成を受け、平成18～19年度にかけて「たんの吸引を安全に実施するための教育講習事業」として18年度に3回、19年度に7回、全国各地で実習を主とした講習会を開催し、時宜にあった企画として高い評価を得ました。

平成20年度は、嚥下障害のため経口摂取ができず、経管栄養や胃瘻造設を余儀なくされる高齢患者が増加しつつある現状を鑑み、「在宅高齢者（嚥下障害者、胃瘻造設者）の栄養管理事業」を計画し、同機構に助成を申請したところ、助成金の交付が決定しました。

委員会は、筆者、山本纈子（藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院院長、前理事）が委員長となり、委員として秋葉則子先生（理事）、松井ひろみ先生（副会長）、大坪公子先生（三軒茶屋病院院長、前理事）、東口高志教授（藤田保健衛生大学七栗サナトリウム外科学・緩和ケア）、向井美恵教授（昭和大学歯学部口腔衛生学一言語・嚥下専門）で構成され、事務局は小林留美さんが担当下さることになりました。

事業の目的は、在宅高齢者およびその介護者への栄養管理知識の普及と安全な経管あるいは胃瘻栄養実施の教育、対象は、主として人工的栄養管理を要する在宅患者の家族およびホームヘルパーさんで、前事業と同様、講習会形式で実施いたします。

第1回の委員会は、7月4日に日本女医会会議室で開催され、講習会用のDVD、テキストの作成、2～3回の講習会開催を決定し、これを受けて今年度

会員動静 (2008年9月26日現在)

入 会	藤村 澄江 (昭37年卒)	宮 城
	新井 恵子 (昭56年卒)	埼 玉
	大久保絵理 (平7年卒)	埼 玉
	久喜まき子 (昭55年卒)	埼 玉
	椎貝 典子 (昭57年卒)	埼 玉
	三木 幸子 (平13年卒)	埼 玉
	三須 雅子 (昭35年卒)	埼 玉
	早川貴美子 (昭61年卒)	足 立
	松永和歌子 (昭50年卒)	葛 飾
	中川 温子 (昭58年卒)	世 田 谷



社団法人日本女医会 長寿社会福祉委員会事業

「在宅高齢者の栄養管理」講習会 —経管・胃瘻栄養の実際—

日時:2008年11月1日(土)
13:00-16:00

会場:名古屋都市センター11階大研修室
金山駅(JR、地下鉄)南出口、徒歩2分
名古屋市中区金山町1-1-1
Tel: 052-678-2208

講演内容

- 1) 嚥下障害の基礎知識・食事・訓練
- 2) 経口摂取に代わる栄養管理法
経静脈・経管栄養、胃瘻・腸瘻など
- 3) 栄養食品・管理機器の展示紹介
- 4) 経管栄養・胃瘻栄養管理の実際

参加募集:約100名、参加費:500円(含テキスト代)

参加申込先:藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院
神経内科 Fax 052-323-5778

は11月1日(土)に名古屋・都市センター、2月7日(土)に東京・ルークホールで、開催することになりました。

高齢者の栄養管理は、生命維持のみでなく、嚥下機能低下に伴う誤嚥性肺炎防止に関連して非常に重要な問題となっています。この事業を通して単に身体的な管理に終始せず、介護を担う人々に終末期の諸問題を考える機会を提供できればよいと願っています。

入 会	野村 幸世 (平1年卒)	文 京
	鈴鹿 有子 (昭54年卒)	石 川
	小林 加奈 (平12年卒)	京 都
	金重恵美子 (昭51年卒)	岡 山
	橋本 康子 (昭56年卒)	香 川
退 会	2名	
物 故	濱田 幸江 (昭9年卒)	北 海 道
	岡 富美 (昭10年卒)	世 田 谷
	堀内千鶴子 (昭33年卒)	都 下 東
	横田 照衛 (昭25年卒)	山 梨



〈医学を志す女性のための キャリアデザインセミナー2008〉

—キャリアもライフもピカピカに磨こう— を開催して

女性医師支援委員会 荒木葉子

2008年9月21日（日）、東京都港区にある女性と仕事の未来館において、昨年に引き続き2回目の「医学を志す女性のためのキャリアデザインセミナー」を開催しました。

参加者は74名で、多数の理事の出席もありました。全国の医学部、医師会、都市部の研修病院、都市部の高校、読売新聞、医学界新聞、リクルートの高校生メルマガ、そして理事の皆様方があらゆる方面へのアプローチを行ってくださり、この人数になりました。アンケートは30名が回答してくださいましたが、10代4名、20代7名、30代2名、40代以上が8名、内訳は高校生3名、医学部生7名、研修医1名、医師8名で、キャリア形成に悩んでいると思われる医学生、研修医、若い医師などの参加が少なかったのは残念でした。参加のきっかけは、女医会会員からの誘いが9名、ホームページ2名、ポスターやチラシ10名、新聞2名、メルマガ2名、学校から4名、知人から3名、その他5名で、高校生は塾や学校の先生が新聞を見て勧めてくださった、とのことでした。

参加した理由としては、男女共同参画に興味があった22名、将来の参考にしたい13名、現在、仕事



家庭に悩みがある1名、他の女性医師のキャリアライフに興味がある14名、その他6名でした。

印象に残った講演として、『女性医師の現状とキャリアデザインのすすめ』（荒木）16名、『「女性医局」における女性医師支援』（長瀬淑子さん）11名、『保育とワークシェアによる女性医学研究者支援』（齊藤加代子教授）12名、『ママでも救命救急医!』（並木みずほ先生）20名、『行政職としての女性医師の働き方』（住友眞佐美先生）8名、『留学を経てグローバルな医療を目指す』（新明裕子先生）17名、『こころの平和と社会の平和』（水島広子先生）13名、『女性



理事が医学を志す女性へのメッセージを寄せ書きしました。

のための「私のクリニック」を開設して』（平田雅子先生）11名、でした。最後にフロアのみなさまより「マイキャリア宣言」をしていただきましたが、これも3名の方が印象に残った、と回答してくださいました。

来年のセミナーに期待することとして、大学の授業にキャリアデザインセミナーを設けて欲しい、グループディスカッション、実際に子育てをしながら医師を続けている方の話をもう少し聞きたい、特殊な例でなく一般的な例を入れたほうが良い、多様な例の提示をするのが良い、男性も加えて欲しい、家庭と両立するための社会制度・環境整備について、など多数のご意見が寄せられました。

日本女医会に望むこととして、学生会員の入会、中高生向けにも講演して欲しい、女医会の存在をもっとアピールしてほしい、育児環境について実態調査、労働環境の是正に声を上げてほしい、今回のような多様なキャリアをロールモデルとして提示してほしい、政治家への働きかけをして欲しい、地方でも同様なものを開催して欲しい、などでした。

本セミナーの内容については別途ご報告する予定です。映像も記録してございますので、各支部での資料としてご使用いただくことも可能です。

本セミナーは山崎副会長を中心に、委員が全員で協力し、講演者に依頼し、参加者を募り、アンケートや資料を用意いたしました。課題は多く残るものの、やはり実践を続けていくことが大事であると思います。これからも日本女医会が、女性医師の働く環境是正、輝く能力の開花を支援し、日本の医療の発展に寄与していく団体でありたいと思います。



「女性医局」による 女性医師支援

株式会社グランツ 長瀬淑子

医師不足、地域偏在などにより日本の医療は厳しい環境下にある。その中で、増加し続ける女性医師が医療現場で力を発揮できるよう、女性医師に特化した紹介会社を2年前に設立した。

女性医師に特化した理由

大学病院在職中に教授会、自分が参加していた医局長会議、あるいは医師会や学会に女性の姿は極少数だが、その一方で学生には女性がどんどん増えてグループの中心には女子学生がいて皆をリードしている現象があった。一体女性医師はどこにいるのか疑問をもったのが、私がこの仕事をする原点だった。その後

一線で活躍する多くの女性医師と一緒に仕事をする機会をもち、育児をしながら医療現場に戻るため支援を必要としている女性医師が数多くいることを知った。

年齢別就業率の国際比較をみると、日本と韓国のみがM字カーブを形成し30代半ばを底辺にしていることがうかがえる。女性医師はそのライフステージにおいて、夫の転勤、出産・育児など自分の意志にかかわらず離職しなければならない環境にあり、ブランクの後に現場復帰することに不安を持っている。そういうさまざまなライフスタイルに対応してキャリア形成をサポートしたいという理念のもと起業した。

「女性医局」に登録している医師

M字カーブの底辺の30代の女性医師が70%以上を占め、毎日勤務の常勤希望者は1/4位で、曜日は決めるが週に1日、2日、3日の定期非常勤希望が半分以上を占めている。

これらのデータはまさに、30代の女性医師がもっとも出産・育児をしながら医療現場に参加したい、という切実な思いの象徴のようにも取れる。キャリア形成としては大事な30代をサポートするのは重要と考える。

女性医局のサポート

☆ 天職コーディネーター

患者さんを助けることを「天職」と思っている医師の希望を聞き、きめ細やかな配慮をしつつ医療機関を紹介する。

☆ 赤ちゃんケア

保育所のある医療機関を中心に探したり、ベビーシッターの紹介やアドバイスをします。

☆ 研修

理解の深い女性の院長のクリニックを中心に、ブランクの長い医師を、必要な期間研修を受け復帰してもらおう。女性院長のもとで研修することは医療のみならず、経営についても学び将来の役にたつ。

「女性医局」は大学などで実施されているシステムチックなサポート体制に当てはまらない、さまざまな理由をもった女性医師にきめ細かいサポートを提供し、少しでも社会に良い医療を届ける一助になりたい。



東京女子医科大学の 「保育とワークシェアによる 女性医学研究者支援」

東京女子医科大学附属遺伝子医療センター所長・教授
女性医学研究者支援室副室長 齋藤加代子

東京女子医科大学では、指導的立場となる優れた女性医学研究者の育成を行い、医学部、病院における育児支援と女性医師支援のモデルを育成することを目的として、文部科学省科学技術振興調整費を受けて平成18年より、「保育とワークシェアによる女性医学研究者支援」事業を実施しています。

女性医師のキャリア形成において、1) 子育て支援、2) 勤務環境の改善、3) 生涯教育・再教育の支援が必要です。本事業では、平成18年7月に「女性医学研究者支援室」を設置し、「保育支援」「研究支援」のシステムを構築しました。「保育支援」としては、本学の院内保育所に「病児保育室」を導入し、看護師1名、保育士2名が担当した円滑な病児保育の環境を整備しました。登録児は平成18年度には72名、平成19年度には105名でした。年間利用者数は平成18年度には197名、平成19年度には301名でした。「研究支援」としては、勤務形態の多様性を大学に導入することを目指して、平成18年度、平成19年度はワークシェアにての研究者が2名、フレックス制の研究者が3名、研究費の支給を受けて研究を実施しました。支援を受けている女性医学研究者は1カ月に1回、研究発表会を行っています。本事業の支援を受けた研究者からの評価では、子育てと研究の両

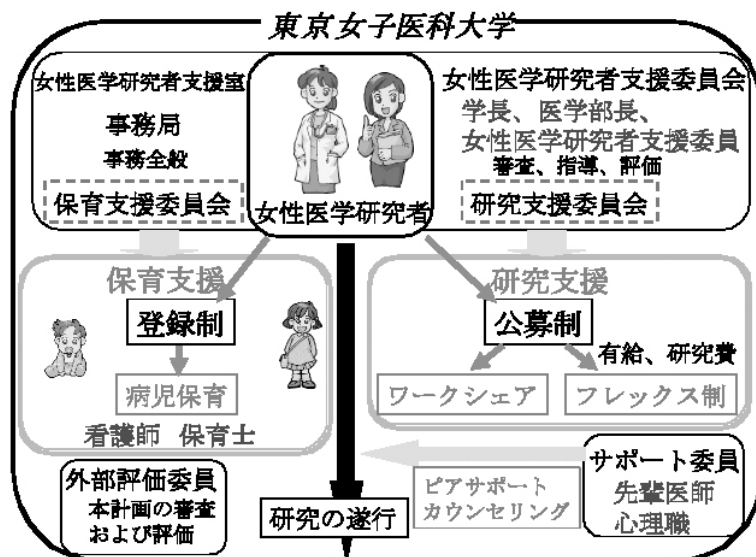
立、研究の進捗に役だったという評価が高く、子育てによって仕事を中断することなく、柔軟な勤務体制の中で研究を継続できたこと、診療科の壁を越えた同じ悩みを抱える仲間と出会えたことが、大きな励みと刺激になるという感想がありました。また、先輩医師や心理職によって構成される「サポート委員」が子育て中の女性医学研究者の相談に乗り、カウンセリングを受けられるように整備しました。子育てと研究の実施が可能な体制を構築し、子育て中の女性医師に研究の推進、学会発表、論文発表の機会を与え、育児との両立によって研究の遂行を可能とするシステムの構築を目指しています。本課題終了後もこのシステムを継続し、本学における女性医師の支援体制をさらに発展させ、指導的立場となる有能な人材が様々な事情でキャリア形成を中断することがないような体制を構築していく必要があると考えています。

ママでも救命救急医！

東京女子医科大学救命救急センター助教 並木みずほ

1) これまでの私

1981年10歳で救急医を志す。91年東京女子医大入学。97年卒業し、救命救急センターに入局。27歳＝医師3年目で結婚。翌2000年第1子出産。01年救急認定医を取得。同年大学院に入学。翌年、30歳＝医師6年目で第2子出産。05年医学博士学位取得し、大学院卒業。復職。翌06年35歳＝医師10年目で離婚。07年救急科専門医等取得し、現在に至る。



2) 私の体験談

・事実婚という選択…

夫婦別姓を通して女性の社会的地位向上に貢献したかった。

・医局の対応

前教授の「女子医大の救命センターが、女性が勤められない救命センターであってはならない」という考えの下、当直免除、1年間の産休育休、大学院進学等が許可された。

・大学院に進んだ理由

充分臨床に関われないため他の医師と実力差ができ、自分が取り残されていく不安を感じたため。

・復職の苦しみ

第一線を退いている間に診療に関する新しいルールができていたり、必要な知識を忘れていたり、できていた手技ができなくなっていたりした。復職後3ヶ月で突発性難聴発症。

・夫との葛藤

家にいて欲しいという夫の希望と、救命医を続けたいという自分の希望が対立。

・離婚を決断した理由

復職に伴い夫が精神的に変調をきたし、子供をネグレクトするに至り離婚を決意。

・それでも私が救急医を続けられる理由

救急医療を続けたいという強い動機があり、保育環境、職場の理解など条件が満たされているため。

・子供達のこと

8歳と6歳の娘達は、近住する自分の両親が育ててくれている。

3) 働きながら考えたこと

・結婚して、子供を持って良かったこと

患者や家族の気持ちをくめるようになった。

結婚前は娘としての立場しかわからなかったが、結婚後は妻・内縁の妻、嫁としての立場、出産後は母としての立場を理解できるようになった。

・なぜ女性医師はつらいのか

医師として成長する期間と、子供を産み育てる期間がほぼ一致してしまうこと、男性よりも細部にまで気がつき、より多くの仕事をしなくてはならないこと、全面的な子育ての上に夫の面倒までみなければならぬことなどが考えられる。

・医局対医局という考え方

子育て中の女性医師の医局では、他の医局員で仕事を分担しなくてはならない一方、夫の医局では、夫が子育てで休まない限り痛手を被らず、医局間での不公平性が生じる。



行政職としての 女性医師の働き方

東京都福祉保健局保健政策部 住友眞佐美

東京都では現在、保健所や保健センター、都庁などに、約170名の医師が公衆衛生医として行政分野で活躍している。

臨床医と公衆衛生医の仕事の大きな違いは、臨床は「個」を中心に考えるのに対して、公衆衛生は「地域」を中心に考えることであろう。臨床医が患者さん一人ひとりの診断や治療を中心とした医療を担うのに対して、公衆衛生医は地域住民全体の健康度の向上を目指して、地域の環境の改善など幅広い観点から施策を展開することや、将来にわたって持続可能なシステムを企画立案することが仕事の特徴である。

保健所は都道府県や政令市が設置しており、都の場合、多摩地区と島しょ地区の保健所は都立（八王子市は市立保健所）、区部の保健所はそれぞれの区立である。都と特別区は別の自治体であり、都庁や多摩地区、島しょ地区の保健所に勤務する場合は東京都職員として、区の保健所・保健センター等に勤務する場合はそれぞれの区の職員として任用される。

東京都の場合、公衆衛生医師の採用や異動等の人事管理は、都が一元的に行っている。このようなシステムは他県には例がない。採用時は原則として係長級として任用しており、その後、課長級、部長級、局長級への昇任のチャンスがある。課長級へは概ね医歴10年以上、部長級へは概ね20年以上で登用の可能性があるが、全員が昇任できるわけではない。

有給休暇等の制度としては、年次休暇など、自治体職員として認められている制度は利用可能である。出産や子育てに関する制度としては出産休暇制度、育児休業制度、看護休暇等の制度も整備されている。もともと地方公務員には女性職員も多く、産休や育休を取りながら働き続ける者も少なくない。そのため、一般の企業や医局等に比較すると、様々な制度を利用しやすい雰囲気である。いろいろな意味で、女性職員にとっては「勤めやすい職場」と言えよう。

都の公衆衛生医全体に占める女性医師の割合は徐々に増加している。平成20年度では、公衆衛生医の約57%が女性で、特に保健所長31名のうち19名（約61%）が女性である。全国の保健所長483人のうち、女性の所長は109人（約23%）であるのと比較しても断然高い。女性の公衆衛生医は組織のトップとして活躍する者も多く、都の保健衛生行政の中で大きな役割を果たしている。



米国臨床研修の先に 見えるものは？

—女医のブランディングとキャリアプランニング—

聖マリアンナ医科大学腫瘍センター医長 **新明裕子**

包括的かつ実践的な臨床能力を得ることができる米国臨床研修の良さは絶大である。しかし、残念ながら決して全ての人向けの道ではない。留学を目指す上で注意しなくてはいけないのは、米国臨床留学は通過点でしかなくゴールではないということである。医師としての基本的な素養、構え、考え方の多くは卒業後3～5年までのトレーニングで決まるので、その時期を大切にしてもらいたい。医学部を出て間もなく、きちんとした研修を受けずにアルバイトをしながら臨床留学のための受験勉強や準備をしている人が存在するが、そういったキャリアプランニングには疑問が残る。米国臨床留学後の注意点もある。米国臨床留学の肩書きを下げた帰国する医師がそれほどめずらしくなくなっているが、実際にその経験や獲得した能力を日本の現場で十分に発揮できている人はほんの数える程しかない。米国で研修をした日本人にとって、既に「異文化」となってしまった日本の状況の中で、うまく立ち回るノウハウを持って帰国しなければ宝の持ち腐れになってしまう。その結果、受け入れた施設にとっても、その本人にとっても、結局不幸な結果を招いてしまう恐れがある。

今回私が伝えたいメッセージは、特に同志である女医がどのように自分のキャリアを創造し、それにあわせて自分自身をブランディングするか、ということである。仕事と子育ての両立のためには、出産育児を視野に入れたタイムスケジュールが大切な要素となる。できるだけ（自分で自信の持てる）実力をつけておくことこそが、厳しい勤務医の労働環境の中で自己実現していくための鍵であるように日々感じている。日本の研修病院には女性指導医のロールモデルは乏しく、女性研修医が将来突入する世界の具体的な難しさと、障害を乗り越えていくための情報はまだまだ少ない。その中で自分の人生を自分の心の方位磁石に従って組み立てることがいかに大切か、ということを提言したい。

・米国臨床留学の利点は以下のようなものがある。

- 1) 臨床医学を体系的に万遍なく、短期間に効率よく習得できる。
- 2) 多様な人種の患者に触れることができ、疾患が

多様である。世界の最先端の臨床医学 / 研究に浸ることができる。

- 3) 世界的な権威の指導者にも比較的容易に接することができる。
- 4) 米国の専門医資格は世界に通用するグローバルな資格であるといえる。
 - ・留学を目指す女医特有の問題がある。
 - 1) 将来活躍する場所がパートナーによって影響される可能性がある。
 - 2) 家庭を既に持った女医の場合、家庭に犠牲を強いてまで研修を受けに渡米する必要があるか？……多くの女医は夫の仕事が優先となるため臨床留学をする場合、夫は日本に残り”妻”のみ単身赴任で行くことになるため、家族の反対がおこりやすい。これは、男性医師が臨床留学をする場合には家族の大きな支援のもとで渡米するのは大きく異なる。話は逸れるが、実際には育児後の復帰の機会として米国臨床研修を利用する女医もある。それほど日本では一度離れると第一線（常勤のポジション）に戻ることが困難な場合が多いのである。
 - 3) 米国臨床研修を始めた場合、子育てと仕事の両立が果たしてできるであろうか？ 子育て中の女医が第一線で働いている姿は確かに米国では自然であるが、良いベビーシッターを見つけるのは難しい。保育所も高額で入所の競争が激しい。子育てとの両立を考えた場合に日本の職場環境は劣悪ではあるが、保育制度に関しては恵まれているように思われる。

2007年度NRMP全米内科研修プログラムのデータを提示（資料1）。

外国人（FMG）が内科プログラムであれば53.7%存在する。この比率はプログラムによって大きく異なる。人気プログラムであれば、米国人で占められる割合が高くなる。また約半数の研修医が女性であること（おそらく研修中に母親になるケースも相当数ある）、女性指導医が3割存在すること、当直明けにそのまま1日中働くことが少ない、onとoffがはっきりしている、指導医と研修医の比率1.3と教育要員が確保されている、などが特徴としてあげられる。

米国研修を希望した際には、どこから始めたいか？

自分のキャリアのゴールが何であるのかを自分自身に問うことから始める。そして同じ目標をもつ全

国各地からの気鋭の同志達と話し合いの機会を得ることはきわめて重要なことである。自分でプロジェクトの長期計画の概要を設計し、自分で必要な情報を集める。自分なりに周到な準備を始める。

これらの作業は時には苦痛を伴うこともあるが、それは各々の責任であり、「プロフェッショナル」としての義務であろう。そのような心構えでいると、その決意をサポートしてくれる人との出会いがあるものである。また、基本的能力の取得も同時に意識していただきたい。体力、精神力、語学、統計学、情報の獲得と処理そして吟味、コンピューターの主要なソフトウェアへの習熟、タイムマネジメント、コミュニケーションスキル、相手の気持ちや場の雰囲気を読む能力、仕事に対する責任感、ワークライフバランスに関する自分の価値観などについて習得することに努めて欲しい。それさえ確認できれば後は、自分にとっての至上を目指すのみである。明確な目標をたて、これらに向けて努力し、自己効力感と動機づけを常に再確認する。そして成功体験が得られるような方向づけが大切である。その過程にはいろいろな困難や障害を伴うが、決して無駄にはならないことを保証したい。

資料1) 2007年度 NRMP 全米内科研修プログラムのデータ

プログラム数	384 施設
研修期間	3年
平均的 PGY1 面接数	205.8 回
研修医 + 専門修練医数	合計 22,026 人 (外国人 53.7%)
平均的研修医 + 専門修練医数	57.3 人 (女性 43.5%)
指導教官 (Faculty)	
平均的常勤指導医数	78.9 人 (女性 27.9%)
平均的非常勤指導医数	17.6 人
平均的教官 / 研修医 + 専門修練医比	1.3
一年目研修医	
勤務時間 / 週	64.7 時間
平均的 maximum 連続勤務時間	27.5 時間
平均的休日 / 週	1.2 日

医師というすばらしい職業を仕事にしている、あるいはしようとしている皆様を心から祝福します。男女は平等であるべきですが、決して女性が男性の人生や感性を真似る必要はないのだと思います。子育てにおいては、母親には母親の役割があります。もちろん、父親には父親の役割があります。女性の人生の中では、能力があっても好機を見送る必要があることがあるものですが、どうぞご自分の運命の巡り合わせの不思議を信じてください。我々女性は自分の人生に簡単に決着を付けないようにしましょう。留学の有無を問わず、皆様は間違いなく日本の医学界の将来を担っています。皆様方の今後のますますのご健闘とご活躍を期待しています。



こころの平和と社会の平和

前衆議院議員・対人関係療法専門クリニック院長
水島広子

患者さんの治療と同じで、キャリアも、目標さえ定めれば、具体的な手法は試行錯誤しながら最も効果的だと思われるやり方を選んでいけば良いと私は思っている。私の目標は「一人一人の心の平和」であり、そのための手段は、臨床、研究、政治、意識啓発活動、と様々に移行してきている。私自身は、長期的なビジョンに基づいて計画を立てるのではなく、目標に基づいて短期的に手法の効果を検証しながら進んでいくタイプなので、同類の方のご参考になれば幸いである。

精神科医としてキャリアをスタートさせた私は、対人関係療法や摂食障害という専門分野も見つけ、医学部時代の自分からは考えられないほど熱心に仕事や勉強をするようになった。その一方で、精神科医として日々仕事をしていると、どうしても社会的な問題に目が向くようになる。自らも第一子を産み、社会意識がますます高まっていた頃、ちょうど民主党の衆議院候補者公募の広告を見つけた。気軽に応募したところ、最も難易度が高いと思われる選挙区を与えられた。すでにコロンビア大学への留学が決まり、奨学金も得ていたので、かなり迷ったが、やはりここは社会のために何かすべきだと考えて、家族そろって選挙区に転居し、結局は国政に二期五年間身を置くことになり、児童虐待防止法の抜本改正など、達成したかったことをずいぶんすることができた。

同時に感じたのは、政治というのは所詮は「装置」であって、その装置を動かすのは人々の意識だということである。意識変革の手法としてのアティテューディナル・ヒーリングへの関心が高まっていた頃、ちょうど政治から解放されたのを機に渡米し、NPOでボランティアをしながら、この手法を日本に普及させるための基盤を学んだ。

現在は、対人関係療法専門クリニックでの診療（そこで厚生労働科学研究も行っている）、帰国後立ち上げたアティテューディナル・ヒーリング・ジャパン（AHJ）の活動、対人関係療法の専門家育成、講演、執筆と、「肩書き」も答えられないような状態であるが、自分の中では、全てに一貫性を感じることができている。

冒頭に、私は長期的なビジョンに基づいて行動するタイプではないと書いたが、その唯一の例外は、様々な意味で可動性の高い夫（フリーランサー）と結婚したことである。自分は夫のキャリアに合わせて動くタイプではないとわかっていたので、最初から同業者との結婚は考えなかった。これが2人の子どもを育てながら、以上の活動を可能にしてきた理由の一つだと思う。

女性のための 「私のクリニック」を開設して

私のクリニック目白・院長 平田雅子

「私のクリニック目白」を開院して丸5年になります。

おそらく、開業医として、トータルで1人の女性を診るという診療を始めたのは、日本で最初だったと思います。私に時代を先取りするセンスがあった

わけではないのですが、家庭も会社も女の人が元気じゃないとうまく回らないと思い、女性を元気にするためにスタートしました。

女性を一人の人間としてトータルで診るということは、数値的にどこも悪くないけれど調子が悪い人、何科に行ってもよいかわからない人も含めて、体のことも、心のことも、フォローします。

私は皮膚科医ですが、生理不順や胃腸の不調から、不眠や仕事が楽しいかどうかなどを聞きながら診察しています。皮膚は内臓の鏡でもあり、心の鏡でもあるからです。

そしていつも思うことは、1人でも多くの女性を元気にしたいということです。20年程働いてきて思うことは、今後、女性医師がもっと働きやすい環境を整えていくことが、とても必要だということです。それは単に、子育てを支援するというのではなく、結婚をするか、しないか。子供を持つか、持たないか。それぞれに希望や考え方の差はあるとは思いますが、どちらを選んでも、胸を張って仕事を続けられる環境を整えていくことです。

女がひとりで仕事に生きることも、大変なことですし、家庭と仕事の両方をこなすことも、技が要ります。どちらを選んでも、自信を持って働いていける、という環境を作ることが、今、本当に必要だと思います。

一生、医師を続けていくという姿勢を、学生のうちから持っていく教育と共に、男性医師にも、女性医師というパートナーを選んだ場合には、一生辞めずに働くことに協力する、という意識を持っていただきたいです。

そして、人生のメンターを見つける。得意なものを作る。何があってもくじけない強い意志を持つことが必要です。



第23回 日本・アラブ女性交流（日本へ受け入れ）について

国連NGO国内婦人委員会副会長・日本女医会前会長 橋本葉子

国連NGO国内婦人委員会が外務省の委託事業として行っておりますアラブ女性交流事業（旧中東女性交流事業）は、2008年度は第22回・23回を迎えることになり、今年度は日本女医会に再び担当をお願いする運びとなりました。日本女医会としては2002年に続き、2回目の担当となります。

これまでは、ヨルダン、エジプト、パレスチナの女性との交流でしたが、シリアからの強い要望があり、今年度より、シリアを含めて4ヶ国の女性との交流事業になりました。しかし、4ヶ国全部への訪問及び受け入れは難しいこともあり、パレスチナとシリアは交互に参加することになり、2008年度はヨルダン、エジプト、シリアとの交流事業となりました。第22回・23回のメインテーマは「リーダーシップの育成と達成」であります。

第22回は日本から中東への訪問事業で、小田泰子会長、津田喬子副会長、平敷淳子国際女医会長が2008年10月31日～11月7日まで3ヶ国を訪問します。

第23回は日本への受け入れ事業です。2009年1月28日（水）～2月4日（水）を予定し、日本女医会とともに鋭意準備を進めて、大卒のスケジュールは表の通りとなりました。

今回は東京と掛川市で公開フォーラムを予定しております。東京でのフォーラムは学術部「学術講演会」を兼ねて、2月1日（日）午後、女性と仕事の未来館で行いますが、日本からの講演者は、前男女共同参画担当大臣の上川陽子氏と東京女子医科大学名誉教授の大森安恵氏のお二人が決定しております。

掛川市でのフォーラムは1月31日（土）午後、東京女子医科大学大東キャンパスで行い、講演者としてねむの木学園園長の宮城まり子氏は決定しております。もう一人の講演者としてコ・メディカル関係の女性を選びたいと考えております。

日本女医会の皆様、この2つのフォーラムに是非ご参加いただき、アラブの女性との交流を深めていただくことを希望しております。

第23回日本・アラブ女性交流 予定表

日	所	行事	内容、役割など
1/28 (水)	来日 (東京)	自由時間 ブリーフィング・夕食	お迎え等 ※女医会会員参加募る
1/29 (木)	東京	外務省他表敬訪問 歓迎会 (外務省主催)	3カ国の大使関係者も参加あり (?)
1/30 (金)	東京→掛川	ねむの木村、見学等 夕食会	※女医会会員参加募る
1/31 (土)	掛川→東京	吉岡彌生記念館見学等 午後：フォーラム (大東 ca) →東京	掛川市長表敬訪問 講師：宮城まり子さん、コ・メディカルの方1名と 中東からの3名の講演 通訳あり ※女医会会員参加募る
2/1 (日)	東京	午後：東京フォーラム (女性と仕事の未来館) 夜：日本女医会主催のパーティ	講師：大森安恵先生、上川陽子先生、中東3名 3カ国大使臨席 (?) 同時通訳あり ※女医会会員参加募る
2/2 (月)	東京	見学・表敬訪問 ショッピング・観光案内 *在日大使館夕食会 (?)	} ・見学先、表敬訪問先未定 ・観光、ショッピング ※女医会会員参加募る
2/3 (火)	東京	見学・表敬訪問 ショッピング・観光案内	
2/4 (水)	帰国 (東京)		見送り等 ※女医会会員参加募る

大東Ca：東京女子医科大学看護学部大東キャンパス

ご協力をお願い

今年度の学術講演会は、国連NGO国内婦人委員会「日本・アラブ女性交流」とのフォーラムと一緒に
行います。多数方々のご協力とご参加をお待ち申し上げます。

大森安恵 東京女子医科大学 名誉教授が Sansum科学賞を受賞



2008年6月、本会会員である東京女子医科大学名誉教授 大森安恵先生が、アメリカの糖尿病研究で有名な Sansum 研究所から、Sansum 科学賞を受賞されました。世界の偉大な仕事をされた方が受賞対象者となり、大森先生は第6番目の受賞者、そして女性としてははじめての受賞であります。これは、女医の地位向上をめざしています日本女医会としてもたいへんうれしいことであり、名誉なことと存じますので、ここにお知らせ申し上げます。

これまでの受賞者はいずれも糖尿病研究では偉大な業績のあるだれもが知っている研究者ばかりとのことです。大森先生は、糖尿病があっても女性は妊娠できる、そしてその治療を確立し、実践されて来られたパイオニアであります。この業績が世界に認められた、ということになりましょう。

東京女子医科大学「学内ニュース」 2008年（平成20年）7月号より転載

今般、大森安恵前糖尿病センター長（名誉教授）がアメリカ、サンタバーバラにある糖尿病の研究所として有名な Sansum Diabetes Research Institute から6月2日に Sansum 科学賞を受賞されましたので報告いたします。同賞は毎年授与されているだけでなく、時に応じて与えられているようです。Dr. William Sansum は1922年アメリカで初めて糖尿病患者さんにインスリンを用い、人命救助に貢献した内科医として知られており、1944年この糖尿病研究所を創設されました。

大森名誉教授の談：

「私の受賞理由は50年以上にわたって糖尿病の人達のために貢献し続けている事、糖尿病と妊娠の分野を日本に樹立した事、国連と国際糖尿病連合の協同キャンペーンで糖尿病と妊娠部門のワー

キングメンバーとして活躍している事のようであった。何しろ推薦状も何も無く、賞を与えるので、6月2日授賞式に参加するようという招待状をいただき驚いた次第である。

この賞は、糖尿病を勉強している人なら誰でも知っている R.Levine, P.Lacy, J.R.Gavin, J.Hoet, P.H.Forsham という偉大なる大先輩に続く6人目、日本人で初めて、しかも女性でも初めてという賞を拝受し光栄この上ない経験であった。45分と規定された受賞講演は、演題を『The Road I Walked』とし、一千年前、日本女性の紫式部は世界で初めて長編小説を書いて日本から文化を発信したが、糖尿病と妊娠の分野はアメリカの大先達の皆様から教えを受けたものである事を緒言で述べ、感謝を表明した。更に29歳で女子医学専門学校を創設した吉岡彌生を讃えながら、女子医大で研鑽した研究データの人種差による糖尿病学の差異を述べ、スタンディングオベーションを浴びて意義深い1日であった。副賞にいただいた2,000ドルは糖尿病学の発展を願って、そのまま寄付してきた」

私の好きな 食べ物屋さん



京都の街は美味だらけ

港支部 二村美美江

古巣関西に旅する折には、必ずどこかへ立ち寄る日本料理のお店三つと、今年の女医の同窓会で知ったレストランをご紹介します。

来年の日本女医会総会は大阪で開かれますが、京都を観光なさる方もいらっしゃると思いますので、味はとびきり、お値段は納得のお店、読んでみて下さい。

一応、電話で予約をとってから行かれることをおすすめ致します。

(1) 割烹 川上 (かわかみ)

京都市東山区祇園町南側 570-122
TEL 075-561-2420

細い道を一力イチリキの前から、右へ曲がると左上に小さく「川上」と看板が上がっています。隣近所も細い格子の日本家屋が並んでいます。

お内儀は松井信子さん、美男のご主人が料理を命じ、自らおさしみを切って盛りつけておられます。娘さんは昨年の直木賞作家、松井今朝子けさこさんです（これは今日のお料理のお話から脇道に入り、すみません）。

お店は祇園町ぎおんまちの中ですから、仕出しを主にし、主な仕出し先が「一力イチリキ」さんです。この土地の方達は、いちりきさんをくっつけて「万亭まんていさん」と呼ぶそうです。

したがってお店は、おもに料理場で腰掛け席がその前にくっついていたような形で、せいぜい8名くらいの腰掛けが並んでいます。別棟も、一度使わせてもらったことがあります、仕出しのいそがしい日は予約出来ません。日曜日は休みです。

お料理は京風の日本料理で、ときときや、旬しゅんのお魚、お野菜で、「おまかせで」とおっしゃればコースで最後の水菓子までお腹いっぱいになるように、お品よく、間よく、待たせず、せかず、若い修行中の男の子の手から私の差し出す手にわたしてくれます。料理のお値段は季節に応じて多少変わるのででしょうか。1万円～多少上くらいと思って下さい。おなじみの祇園祭の

ハモ トキ
鱧の季が、私は一番お高いのかなと思っています。

ご主人は、お若い時は役者さんのようだったろうとお見受けしました。薄づくりの包丁さばきは見事です。先日（6月11日）、おじゃました時はまだ鱧が出たての時期。盛り合わせで少々出して下さいました。この日はお酒（菊正）、ビール少々いただきました。午後5時～9時くらいまで。

(2) 竹茂 (ちくも) 串料理の鉄板焼き

京都東山区祇園花見小路四条下ル四筋目東入ル
(これが正式の住所表示ですから、おどろきです)
TEL 075-561-5630

午後5時～9時（入店）、10時30分まで。予約の電話入れて下さい。水曜定休。

串料理と一口に申しますが、東京ではこれだけの多種類を毎日仕込んでカウンターの前で冷されたケースに並べて仕事をしているお店を、私は恥ずかしながら知りません。

そのほかに季節の一品料理が手書きの日替わりメニューで表示されますが、値段と相談して決めて下さい。書き切れませんが、私が好きでよくいただくものを並べてみます（45種類、その他その月の旬、魚と肉）。

新キャベツ＝生でいただけるのが、さっと焼かれて出されると、その甘さ絶品です。生麩＝両面にこげをつて、ぐっと押しつけて麩の香がおいしいです。牛肉、鶏肉はもちろんのこと、蓮（れんこん）に詰め物（おもに鶏ですが）の肉がじゅっと焼けて、れんこんはすばっとした歯ざわり。とにかく自分のお皿にためないで熱々をいただくこと。それには注文のリズムがむずかしいです。

冬は鱒（ひれ）酒がおすすめです。

次男さんが沖縄にお店を出して、流行っていると聞いています。店名は同じ。

(3) 和久傳 日本料理

京都市下京区烏丸通塩小路下ル 東塩小路町 901
J R京都駅伊勢丹デパート 11階
TEL 075-365-1000

昼 11時～午後3時30分 夕食午後5時～10時

予約はありませんが、一応お電話いただければ、席順は早めますとのこと。表に椅子が並ぶほどおいしい季節の日本料理ですが、新幹線の時間を気にしている時は、いらいらします。鱧、あゆ等、気取らないで出て来ます。

(4) リーガロイヤルホテル 14階回転レストラン
 フレンチダイニング トップオブキョウト
 京都市下京区東堀川通塩小路下ル松明町1
 TEL 075-341-1121

一周、90分、ほぼお食事が終わる頃にあわせています、と店のボーイさんの説明です。回っているのが気にならない速度ですから食欲を害しません。私が考えた条件は、晴天で昼食を。夜景はお目あての大文字跡が見えないからです。あそこで松明をたくのだからという山肌が晴天ですと、くっきり。ゆっくり、美味なステーキをいただきながら眺められ、長年の京都通いで初めての経験をさせていただきました。京都の幹事さんたち、ありがとう。

それなのに、そのレストランに問合せたところ、なんと6500円+消費税、ビール等のおのみものは別。最後に出たケーキのおいしかったこと(料金は来年のことは?)。

古都京都には、まだまだ外者の知らない穴場がたくさんあるんです。きっと。



■支■部■だ■よ■り■

岩手支部

山口淑子、斉藤恵子

9月27日、南部富士岩手山に初冠雪ありました。紅葉が美しい秋の到来です。

さて、岩手県支部は現在11名の会員で会員の増加はありません。今年の活動は1月に「痰の吸引の講習会」が小田会長はじめ担当の先生方のご指導で実施することが出来、市民の皆さんに感謝されました。特に奥さんの介護をされる元校長先生には自信を持って介護に関わることが出来るようになり、奥様の改善も顕著で、素晴らしい結果でした。性教育の指導も当地で講習会の指導を頂いてから、学校医や小児科医夫々の立場で小中高校生対象に継続して十代の妊娠中絶率の減少に寄与しております。また小児救急に関しましても日本女医会で刊行した冊子を用いて幼稚園、保育園で講演しております。これからも数箇所予定があります。

10月29日は日本女医会岩手支部主催、日本女医会、岩手医師会女性医部会共催で市民一般公開講座を併



骨粗鬆症治療薬

フォサマック[®]錠35mg

Fosamac[®] Tablets 35mg

アレンドロン酸ナトリウム 水和物 錠

副薬・指定医薬品・処方せん医薬品・注意・医師等の処方せんにより使用すること

〈薬価基準収載〉

【禁忌】、【効能・効果】、【用法・用量】、【使用上の注意】等については、製品添付文書をご参照ください。

製造販売元【資料請求先】

万有製薬株式会社

〒102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア
 ホームページ <http://www.banyu.co.jp/>

Registered trademark of Merck & Co., Inc., Whitehouse Station, N.J., U.S.A. 2008年7月作成 07-13-FSM-08-J-A08-J

人、黒田杏子先生に「俳句で生き生き」の演題で行ないます。言葉のセンスを磨くために心を砕くことは打ちなる感性を磨くことに等しく、俳句によってそんな習慣を持ちうる事が出来ます。俳句的思考の特徴である「小さきものへの慈しみ」や「ふとした瞬間の気持ち」を的確に捉えること」は自分自身への気づきや人や自然への愛情を育むことになると考え、ストレスの多い現代の人々に日本文化から得られる良き豊かさを感じてもらえたらと講演会の効果を期待しています。黒田先生は俳人として著名な方であるとともに、結婚されながらキャリアウーマンとして活躍されたラ

イフワークバランスの実践者でもあり、私たちがご教授いただくものが大きいと確信しております。

この10月3日、岩手県歯科医師会女性歯科医部会も発足しました。発会式の招待いただきましたが、会員90余名中30人が県下から集まり設立の喜びがみなぎっていました。

歯科女医さんたちは食育問題、禁煙運動ではでは先んじて県内で活躍しており、健全な青少年育成や育児支援やキャリアアップその他多くの共通する諸問題解決を協力、連携して大きな味方が出来たとこれからを楽しみにしております。

大阪府女医会活動報告（～08）

理事・大阪第9支部 吉馴茂子

有限責任中間法人化したしました

60年の歴史を持つ大阪府女医会は、女性医師の地位向上と社会的に更なる躍進を期して、この度、法人化を致しました。以下、その後の活動のご報告をさせていただきます。

07/4/2 有限責任中間法人大阪府女医会設立（川田喜代子会長）

4/22 本会主催第1回市民公開講座開催 於 大阪府中央公会堂
講演「脳知改革 こうすれば脳は鍛えられる」 出席市民 250人
講師 和歌山県立医大附属病院長 脳神経外科教授 板垣 徹

6/16 本会主催第1回「女子医学生の要望 将来設計を聞く会」於 関西医大

6/24 本会総会 創立60周年記念 法人設立記念祝宴開催 於 帝国ホテル
主なご来賓 酒井大阪府医師会会長 大阪府副知事 関大阪市市長
小田日本女医会会長 平敷国際女医会会長 女優山本富士子氏他出席者女性75人、男性65人

9/30 (社)日本女医会主催 本会共催 於 大阪府医師共同組合ビル 出席者 80人
「痰の吸引を安全に行う為の講習会」対象 家族介護者 一般医療関係者 ヘルパー

11/10 本会第1回学術講演会 於 第1ホテル

- 1) 国立循環器病センター代謝内科医長 斯波真梨子「脂質異常症の最新治療戦線」
- 2) 東海大学医学部 抗加齢ドック教授 久保明「女性の長寿の解明と展望」

11/11 大阪府医師会医学会総会 本会から パネル展示2題応募

- 1) 「大阪府下の女医会活動の現状と展望」野崎京子
- 2) 「自園型及び保育所型病児保育の問題点」保坂智子

11/17 本会 第1回評議委員会 AED講習会施行 於 大阪市大

08/4/6 本会第2回市民講座開催「睡眠障害と生活習慣病」 出席市民 180人
講師 和歌山県立医大 精神神経科教授 篠崎和弘 於 大阪府医師協組開館

4/27 日本女医会大阪支部連合会総会（会長 野崎京子）於 ラマダホテル
講演 「女性排尿障害のプライマリーケア」大阪医大産婦人科助教 田辺晃子

6/19 本会主催第2回「女子医学生の要望 将来設計を聞く会」於大阪医大

6/29 本会第2回 総会 懇親会 講演3題 於 ホテルグランヴィア

- 1) 大阪府医師会長 酒井國男「大阪府医師会の今後の重点課題」
- 2) 京都大学医学部教授 武曾恵理「糖尿病腎症の診断と治療」
- 3) 大阪医大眼科学講師 植木麻理「糖尿病と眼合併症 網膜症を中心に」

10/4 第2回大阪府女医会 学術講演会 於 大阪国際会議場

- 1) 阪大臨床遺伝子治療学教授森下竜一「アンチエイジングから血管を考える」
- 2) 大阪府立成人病センター名誉総長小山博記「乳癌医療最前線」

12/7 第1回「女性医師による健康何でも相談」於 デイアモール大阪（梅田地下街）
相談担当医師延べ約20人の予定です

* 他にゴルフコンペ3回、観劇会1回行いました。

（文中敬称略）

平成21年度日本女医会総会予定(案)

日 時	平成21年5月16日(土)、17日(日)
場 所	ホテルグランヴィア大阪 (JR大阪駅中央口より直結) 大阪市北区梅田3-1-1 電話06-6344-1235
プログラム (予定)	<p>○2008年5月16日(土)</p> <p>PM 4:00 総会受付開始 参加登録費 3,000円</p> <p>PM 5:00～7:00 評議員会</p> <p>PM 7:30～9:00 懇親会 懇親会費 15,000円</p> <p>ソプラノ歌手 河村さと子独唱会 京都市立芸術大学音楽部卒業 兵庫大学短期大学准教授</p> <p>○2008年5月17日(日)</p> <p>AM 10:00～12:00 総会 昼食</p> <p>PM 1:00～3:00 講演会 国際女医会会長 平敷淳子先生 前九州大学病院院長 水田祥代先生</p>

ご参加を
お待ちしております!
おります!



私の大学

金沢医科大学

～女医会 水月会の15周年を迎えて～

石川支部 赤澤(久藤)純代

はじめまして、金沢医科大学平成4年卒の循環器内科医の赤澤と申します。

少し波乱万丈の自己紹介をします。私の母校金沢医科大学を卒業して、研修終了後、東大の循環器内科(旧:第三内科)へ内地留学し基礎研究をしていました。独身時代は順風満帆な人生を送っていましたが、これまた運命のいたずらで結婚→教授選挙→第1児出産→東京大学駒場先端技術研究所→第2児出産→母校に戻るや否や、またパワーゲームの中で教授選挙→女性外来開設→第3児出産→間髪いれず勝手に異動→移籍後、女性外来を細々続けて5年→女性性差医療センター開設準備中です。人生、生かされていることに感謝です。このパワーゲームで心身共に疲れている中、母校で与えられたテーマは、女性外来でした。ラッキーだったことは、すてきなロールモデルとなる女性医師に出会えたことでした。村崎芙蓉子先生、天野恵子先生、対馬ルリ子先生です。自分の学生時代の経験や女性外来を、性差医療を通して沢山学び気づかされました。母校へ戻り、反省して考えたことは、女性医師がハッピーに過ごせるようになるためには、学生時代にキャリアデザインを描いてさらには、輝いているロールモデルに出会いどこまで

具現化し、さらにはパートナーと上司の理解がどこまで得られ、ワークライフバランスをとりながらどこまで、自己実現へ歩みよることができるのかが大切であるということです。医療制度崩壊の中、疲弊している勤務医は多い、しかし、視点を変えてこれまでの古い医局単位の古い慣習をなくすことが大切なのではないか?などを現在の理事長山下公一先生をはじめ自由に議論できるようになったのは、金沢医大の女医会である水月会が15周年を迎え、初めて男性医師もお迎えして会をすることができたからです。現在、水月会会員は、104名です。

また、今年入学の女子学生さんは、全体の学生さんの3割強を占める勢いです。卒業時にはなんと女性のほうがまじめで4割を占めるようになっております。

さらに少子高齢化の中、人口の半分は女性が占め、さらには、22年間世界の寿命のトップを本来なら走っている中、女性医師の寿命は短い。ミトコンドリアの遺伝子は、母由来のものであるらしいし、医師になれる優秀な遺伝子も子孫に残せたらさらによいのでは(笑)。人口の半分は女性だし社会全体に育児・保育のみではなく、学童、さらにはその上の教育を含め安心してキャリアを中断することなく働き続けられる環境のインフラ整備が整うことは、男性をも社会をも幸せにするのではないだろうか?これまで大変な環境の中で働いて水月会を作られた先輩さらには、日本女医会の先生がたに敬意を表し感謝申し上げます。

また、若い先生達の輝かしい未来がワークライフバランスを保ち、家族と仕事が両立でき、豊かな心を育

み、心の通った良い医療人が造られ、次世代に残せるようになることを祈って！

基礎研究の世界では業績が全てでした。結婚、出産、育児、仕事で女性はへとへとになってしまいます。オリンピックのヤワラちゃんの「ママになっても」金がとっても難しいことも痛く伝わってくる。女性医師の問題は、氷山の一角で地域医療の崩壊がすすんでいる今、議論されるようになったのは、とてもうれしい。しかし、医療の世界も、さらに地方（地域格差）もまだまだ男性社会である。固定観念が強く、地方においては子供を育てんと働くとは……と女性から非難を受けることも多い。

女性は、男性は、こうあるべき姿が時代の多様化の中、邪魔をすることもある。

ドクターズマガジンに女性医師の特集があった。大阪厚生年金病院、清野先生のお話に強く共感した医師は医業収入を発生させる職種であるから経営者はDr数の増加を恐れるべきではない。また、育児休業中の1年半は給与の4割を支給する必要がありますが、この部分は雇用保険でカバーできることを沢山の人が知ってもらい古い医局の考えで女性Drは負担になるということを塗りかえたいと願っています。

金沢医科大学では、来年度春より、女性性差医療

センターができる予定で、内容は臨床の場として女性外来が柱で、その他、市民の啓蒙活動・女性医師の支援制度（さまざまな目的がある女性医師のすみわけをする必要があると思う）。学生さんへの教育：ファカルティディベロップメント（FD/意識改善をし、向上させるための組織的な取り組み）をして男性の勤務環境の改善のためにも男性の意識改革のプログラム。と展開してゆく予定です。すべての女性のために各科が協力できる、さらには、気兼ねせず産み子供を育てキャリアも作れるシステムが作れないものか？ということが大切になると思います。また、学生さんの時代より、性差を意識した教育を受け、お互いのパートナーとの将来に向けてのキャリアデザインをしてさらには、出産子育てでいったんキャリアを中断してしまった先生の再教育もできるコーディネーターを育成するセンターをみんなで作って行きたいと思っています。

金沢医科大学には、北辰同窓会という会もあり、その中で女性部の結成が承認され、さらには、学生さんの水無月会もできる予定で地道ですが、すすんで行きたいと思っています。

また、ご指導のほどよろしく願い申し上げます。

書評『ノーフォールト』

岡井 崇 著 早川書房刊



主人公は大学勤務5年目の女性産科医師で、夜間当直で妊婦の胎児心拍が悪くなり緊急帝王切開を行うが、運悪く上司の産科部長が他の患者の説明に手間取って、困難な手術に立ち会おうのが遅れた。何とか一人で無事に手術も終わりホットした矢先、術後3日目に腹腔内出血が起り再手術を余儀なくされる。その後、原因不明の出血を繰り返し、遂にDICを起こして母親は死亡、家族から訴訟をおこされる。その訴状を見た主人公は、原告の名前の中に自分が緊急手術をして生命を助けたはずの子供の名前を見つけ愕然とし、一生懸命治療した患者から訴えられる虚しさを痛感し、次第に意欲を喪失、無気力になり、産科医を辞めたいと思いはじめ。主人公の女性医師は、私が麻酔科医として大学病院に勤務していた頃の過酷な労働状況を思い起こさせ、懐かしくもあったが、一つ間違えばこのような事件に巻き込まれていたかもしれないと、改めて胸をなで下ろさせた。2004年に福島県大野病院で、一人赴任の医師が前置胎盤の帝

王切開術を施行し、術後の大量出血で母体が死亡し、執刀したその医師が業務上過失致死で逮捕されるという事件があったが、地方における医師不足によって起ったとも思える事例である。この医師逮捕事件は、今年の8月に刑事事件は無罪となったが、この主人公のように過酷な労働条件下で意欲をもって仕事に打ち込み、その結果披露困憊し、燃え尽きて勤務医を辞める医師が後を絶たない。ハイリスク産科医療の第1人者である著者岡井先生のこうした状況の描写が大変リアルで、産科医でない一般読者にも、医療現場の過酷な実態を理解してもらいたいというメッセージが強く伝わり、来年の1月からスタートする産科無過失補償制度の導入にも少なからず影響を与えたであろうし、これから先の日本の医療崩壊に警鐘を鳴らす良い作品だと思った。

(理事 宮崎千恵)

社団法人日本女医会
((((理事会議事録)))

日時：平成20年6月28日(土)
午後3時

場所：日本女医会会議室

出席者：小田、松井、山崎、
秋葉、安部、荒木、
小関、古賀、川村、
澤口、澁谷、高原、
田中、塚田、対馬、
濱田、藤川、宮崎、
宮本、矢口、山田、
吉馴、中井、森川
(以上24名)

欠席者：津田、内潟、山本
(以上3名)

報告事項

- ・庶務
- ・会計
- ・事業
- ・渉外
- ・学術
- ・広報
- ・委員会報告

1. 子育て委員会

2. 長寿社会福祉委員会

- ・NC報告
- ・会員動静
- ・連絡事項
- ・寄贈本、パンフレットなど

審議事項

懸案事項

4月理事会の議事録を承認

会長挨拶

1. 新体制での理事会運営に協力を求める。
2. 岩手宮城内陸地震に対する配慮に感謝。
3. 今期の会務分掌を作成した。希望に添えなかった方もいらっしゃ

るがご了承頂き、日本女医会発展のために流動的に協力して頂きたい。

4. 今期には日本・アラブ女性交流、来期には国際女医会西太平洋地域会議の日本開催が控えており、他団体との交流が多くなる。多数の役員が参加され視野を広めてほしい。

5. 事務連絡等には日本女医会役員の自覚を持って、敏速に反応してほしい。

6. アメリカ大統領民主党予備選におけるヒラリーさんの対する報道に対し、アメリカでさえもまだ女性に対する壁が厚いと感じた。

7. 日本医師会・唐澤会長就任祝賀会に松井副会長が出席、また日本医師会男女共同委員に松井副会長を推薦した。

・役員の自己紹介と事務員の紹介があった。

報告事項

1. 庶務報告 古賀理事

・5月14日、国際婦人年連絡会・環境委員会に出席 (藤川理事)

・5月21日、国際婦人年連絡会・総会に出席 (中井監事)

・6月2日、国連 NGO 国内婦人委員会・役員会に内潟理事が出席

・6月10日、日本医師会役員就任披露パーティに出席 (松井副会長)

・6月17日、内閣府男女共同参画局主催「女子差別撤廃条約実施状況第6回報告等について聞く会」に出席 (松井副会長)

・6月18日、全地婦連「2008リーダー研修会」で講演 (小田会長)

・6月26日、「町村内閣官房長官・上川内閣府特命担当大臣(少子化対策、男女共同参画)との懇談会」に出席 (松井副会長)

※次回より欠席の場合は必ず紙面報告をする。

2. 4、5月会計報告(濱田理事)承認

3. 各部報告

＜事業部報告＞

「いきいき」への健康情報記事の執筆を継続中 (田中理事)

＜広報部報告＞

日本女医会誌第195号の原稿を募集中。会誌の原稿、会誌広告の協力を要請 (対馬理事)

＜ナショナルコーディネーター報告＞

(内潟理事欠席のため松井副会長代読)西太平洋地域会議の抄録締切が7月18日までに延長、役員多数の参加を要請。参加者は事務局まで連絡のこと。

4. 委員会報告

・子育て委員会 (対馬理事)

福祉医療機構の助成金による事業「『十代の性の健康』支援ネットワークづくり」を実施するにあたり、役員の協力を要請

・長寿社会福祉委員会

(松井副会長)

同じく福祉医療機構の助成金による事業「在宅高齢者(嚥下障害者、胃瘻造設者)の栄養管理事業」を実施。第一回の委員会は7月4日に開催。

審議事項

1. 役員会務分掌の件(資料1)

配布資料の承認を得て下記どおりに決定。

部署	副会長	理事
事業部	津田	田中、藤川、山田、吉馴
学術部		安部、荒木、内潟
渉外部	松井	川村、澤口、矢口、山本
広報部		秋葉、澁谷、対馬、宮崎
庶務部	山崎	小関、古賀、宮本
会計部		高原、塚田、濱田

ナショナルコーディネーター：内潟
2. 各種委員会の件 (資料1)

配布資料の通り承認

子育て支援委員会	対馬ルリ子 津田喬子 澁谷きよみ 金重恵美子 斉藤恵子 早乙女智子 鹿田儀子 堀本江美
長寿社会福祉委員会	山本纈子 松井ひろみ 秋葉則子 大坪公子 東口高志 向井美恵

3. 平成20年度役員会開催日及び開催時刻の件 (資料2)

下記のように決定する。

平成20年		平成21年	
7月	26日	1月	24日
8月	休会	2月	28日
9月	20日	3月	28日
10月	25日	4月	25日
11月	15日	5月	17日
12月	14日		

4. 第53回定時総会の反省

- ・進行がパワーポイントを使用し、スリム化ができた。
- ・シスター渡辺の講演内容も大変好評であった。

5. 会員名簿発行の件

- ・前期理事会で発行は承認されたが、会計部と相談し次回理事会で検討。

6. 歓送迎会の件

- ・役員交代のある年に例年行われているが、今年も行うことに決定する。
- ・会場は京王プラザホテル、会費は10,000円～15,000円、詳細は庶務に一任。

7. 日本・アラブ女性交流の件(資料3)

- ・資料に基づき松井副会長より説明があった。

今年度は小田会長、津田副会長、NGOから推薦による平敷国際女医会会長がヨルダン、エジプト、シリアを10月末より訪問。来年の1月から2月にアラブからの代表を受け入れ。テーマは「リーダーシップ」に決。

- ・お土産としてのボールペンを沢山集めてほしいとの要請があった。

8. 国際女医会西太平洋地域会議の件 (資料4)

2社より見積もりが出ているが、各自の意見を纏め、次回理事会で決定する。

9. 女性医師支援委員会から

(資料5)

- ・荒木理事より9月21日「女性と仕事の未来館」で開催する「キャリアアップセミナー(2)」の概要の説明があった。

- ・希望により、山崎副会長、澤口理事、澁谷理事、塚田理事、対馬理事、藤川理事、宮崎理事、矢口理事、山田理事そして荒木理事が委員となる。本日欠席の理事にも問い合わせる。
- ・本日理事会終了後に第1回の会合を開き、今後の活動を検討する。

10. ブロック別懇談会出向の件

古賀理事よりブロック出向についての説明があり、宮崎理事の協力により奈良での開催を検討する。又、昨年からの延期になっている香川で開催を実現したい。

11. 岩手・宮城内陸地震の件

今回は義援金を見送る。

12. その他

- ・公益法人制度の改革に伴う公益社団法人への移行について

今年12月1日に「公益法人制度改革」が施行され、5年間の移行期間を持って認可を得なければならない。庶務部で原案作成。

- ・学生会員について (資料6) 神奈川支部の前田会員より学生会員や研修医の増強を図ってはとの提案があった。今後庶務部を中心に会費の件も含めて検討する。

又、以前提案のあった日本女医会の宣伝用縦看板制作は事業部が担当する。

- ・職員の定年について 高年齢化等の雇用の安定等に関する法律・第9条により定年制の廃止、連続雇用にするか、定年を65歳にするかの選択がある。就業規則の内容の見直しをする。庶務で原案作成。

- ・他団体からの依頼 (資料7) 総理府男女共同参画局「平成20年度チャレンジキャンペーン」の共催団体として登録することを承認。

- ・会員増強のため、日本女医会の宣伝のため、ロゴ入りの名刺を作ってはとの提案があり、事業部と広報部で作成することに決定。
- ・澁谷理事より支部の名称について質問があった。「日本女医会愛知県支部」としての名称の使用は全く問題が無いと承認された。

- ・職員夏期賞与について 2ヶ月とする。

懸案事項

1. 役員選挙について 庶務で原案作成をする。
2. 理事の定員数について 会員減少に伴い理事の定数を少なくしてはとの意見があり、庶務で原案作成する。
3. 寄付の件 各自が分配金の取れる預金をして、利子分を寄付するという案があるとの説明が森川監事よりあつ

た。

以上

日時：平成20年7月26日(土)

午後3時

場所：京王プラザホテル

出席者：小田、津田、松井、山崎、秋葉、安部、荒木、内潟、小関、古賀、川村、田中、塚田、対馬、濱田、宮本、矢口、山田、山本、吉馴、中井、森川(以上22名)

欠席者：澤口、澁谷、高原、藤川、宮崎(以上5名)

報告事項

- ・庶務
- ・会計
- ・事業
- ・渉外
- ・学術
- ・広報
- ・委員会報告

1. 子育て委員会
2. 長寿社会福祉委員会
 - ・NC報告
 - ・会員動静
 - ・連絡事項
 - ・寄贈本、パンフレットなど

審議事項

6月理事会の議事録を承認

会長挨拶

1. 国際女医会、西太平洋地域会議の開催が近づいてきた。多数の参加を希望する。
2. 日本・アラブ女性交流が具体的に動き始めた。10月末に津田副会長、平敷国際女医会会長と三人でアラブ三国を訪問。来年1月～2月頃に訪問団が来日。その際にはご協力をお願いした

い。

3. 7月19日に福岡で日本医師会男女共同参画フォーラムに津田副会長とパネリストとして参加。福岡支部のご尽力のお陰である。
4. 7月6日埼玉支部総会に出席。その席で若い女性医師より「専門医取得」についての話題が出された。

報告事項

1. 庶務報告(古賀理事)

- ・7月6日、日本女医会埼玉支部総会に出席 (小田会長)
- ・7月12日、宮城県女医会総会に出席 (松井副会長)

2. 6月会計報告(濱田理事)承認

3. 各部報告

<事業部報告>

7月20日、小田会長代理として出席した「第18回全国病児保育研究大会開会式」の報告。また、来年度総会の打ち合わせのために大阪を訪問 (田中理事)

<渉外部報告>

7月11日開催の国連NGO国内婦人委員会総会の報告 (矢口理事)
同日、外務省で行われた「日本・アラブ女性交流」打ち合わせの報告 (津田副会長)

<広報部報告>

日本女医会誌第195号の校正会議を8月6日に開催 (秋葉理事)

<学術部報告>

テーマの要望を募りセミナーを開催する予定 (荒木理事)

<委員会報告>

- ・子育て支援委員会
8月24日に第1回の委員会を開催。実際に展開するのは秋頃の見込み (対馬理事)
- ・長寿社会福祉委員会
7月4日に第1回委員会を開催。ビデオ、マニュアル本の作製、講習会の開催を予定している (松井副会長)

・女性医師支援委員会

先月の委員会で検討された活動内容に基づき各々担当決め、効率的に活動したい。(荒木理事)

<ナショナルコーディネーター報告>

現在のところ西太平洋地域会議へ参加者は9名。

上半期の日本女医会の活動は既に「Update」に掲載されている。

今後、国際女医会義から来る「Update」はメールで役員全員に配信したい。

※NPO法人日本ユニフェムと読売新聞からの募集に対して推薦を協力要請。日本女医会のHPからのリンクも検討する。(内潟理事)

審議事項

1. 会員名簿について(古賀理事)

庶務部と会計部との話し合いの結果、名簿作成賛成が多かった。しかし各自の名簿活用度の考慮、厚生労働省から定款認可の回答があってからすべき等の意見が出された。名簿発行に関して、発行時期等について今後検討していく。

2. 日本・アラブ女性交流について (津田副会長)

アラブ訪問のテーマを外務省に提出した。来日の受け入れについては、東京と他の一箇所として静岡県・掛川市から協力を得られると報告された。今後、役員の協力を要請。

3. 女性医師支援委員会(荒木理事)
メールで全員に送信済みの案(資料)に基づき荒木理事より説明があり、承認された。新たな講師候補がいる場合はメールで全員に承認をとり、早急にポスターを作成する。

4. 西太平洋地域会議について (内潟理事)

中西興産株式会社に依頼する。

5. 名刺について (田中理事)

名刺案(資料4)を基に田中理事より説明があった。白黒、両面印刷で作成することに決定。裏面の「女医会の紹介」の内容については、各自の意見を来週中に事務局に提出し、最終案は事業部と広報部とで決定する。

6. 定款改正について(山崎副会長)理事の定数、選挙方法、職務規定(特に事務の定年について)の改正を庶務部で再検討し、案を作成する。

7. 慶弔費について (古賀理事)

「慶弔費」は旧役員および現役員の慶弔に使用するために長年役員から徴収したお金と寄付金等がプールされたものであるが、用途が限定されているので、もっと柔軟に使用できるよう名称変更の提案が出された。又、本日の歓送迎会は欠席者からも3000円徴収して、残金は「預かり金」としてプールする。

8. その他

・2009年定時総会について

(古賀理事、吉馴理事)

今年度の総会と同様に、土曜日に

評議員会と懇親会、日曜日に総会を開催する。

吉馴理事より進捗状況について報告があった。また、今年度総会での支出が今まで一番少なかったとの報告も古賀理事からあった。

・会誌広告料について (小関理事) 会誌広告料(半面5万円、全面10万円)では高額すぎるとの声が多々ある。広告料と印刷料の兼ね合いを考えて料金を検討する。

以上

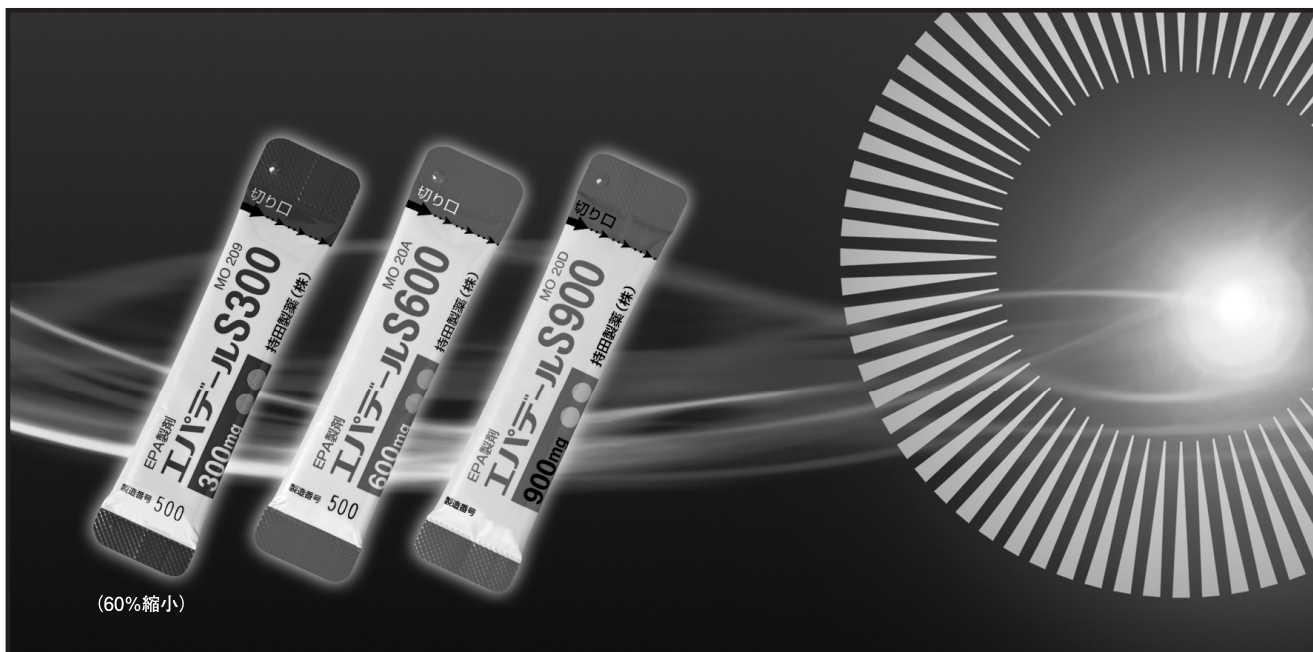
寄付者一覧

以下のとおりお知らせいたします。ご協力誠にありがとうございました。(敬称略)

氏名	支部名
今野 信子	新宿
澤口 彰子	学内
塚田 篤子	栃木
藤川真理子	都下西

氏名	支部名
宮崎 千恵	岐阜
村岡 真理	青森
湯村 和子	栃木

5月に亡くなられました野澤良美先生(都下東支部)のご遺族の小川昭子先生よりご寄付を頂きました。



(60%縮小)



EPA製剤 指定医薬品
エパテールS 300 600 900
 日局 イコサペント酸エチル・軟カプセル剤 (薬価基準収載)

EPA製剤 指定医薬品
エパテール カプセル 300
 日局 イコサペント酸エチル・軟カプセル剤 (薬価基準収載)

※【禁忌】、【効能・効果】、【用法・用量】、【使用上の注意】などの詳細は添付文書をご参照下さい。

製造販売元 (資料請求先)  **持田製薬株式会社**
 東京都新宿区四谷1丁目7番地
 電話(03)5229-3906(学術)〒160-8515

2007年5月作成 (N12/15)

日本女医会よりご案内

日本女医会吉岡弥生賞 推せんについて

平成20年「日本女医会吉岡弥生賞」受賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せんくださるようお願いいたします。

締め切り期日は、平成20年12月25日までに願います。なお、次の書類を添えて、ご推せんをお願いします。

1. 自筆履歴書
2. 業績
 - イ) 医学に貢献した現会員。
 - ロ) 社会に貢献した現会員。
3. 推せん理由

日本女医会荻野吟子賞 推せんについて

平成20年「日本女医会荻野吟子賞」受賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せんくださるようお願いいたします。会員・非会員を問いません。おもに地域医療に貢献された方を対象としています。

締め切り期日は、平成20年12月25日、候補者の経歴、業績と推せんの理由を記載し、推せん者の氏名、捺印をもって提出してください。

地域医療奉仕活動 に対する助成のご案内

平成20年「地域医療奉仕活動」に対し助成を致しますのでご案内申し上げます。

各地域において医療、公衆衛生等の奉仕活動を行っている日本女医会会員を主体とするグループを対象と致します。応募の締め切りは、平成20年12月25日、申請書は事務局にありますのでお問い合わせください。

(社)日本女医会 事業部

第28回 学術研究助成のご案内

会員の学術研究に対し助成事業を行っております。希望者がありましたら、応募要項にしたがって、事務局あて申請くださるようお願いいたします。

1. 助成の趣旨
医学分野の発展向上を図り、後進の研究助成を目的とする。
2. 助成金額
1件30～50万円(3件)
3. 申込手続
(1)応募資格
入会継続3年以上経過した日本女医会会員で個人、またはグループ(ただし、グループ研究

においては会員が研究推進の中心的役割をになうものであること)

- (2)助成期間
1年を原則とする。同一人が重ねて申請する場合は、3年以上の間隔を置く。
- (3)応募方法
本会所定の用紙に、黒インキまたはワープロで記入。
1通を提出(用紙は事務局へ請求のこと)
- (4)締切期日
平成20年12月25日必着
- (5)選考および発表方法
選考委員会において選考の

上、平成21年2月開催の日本女医会理事会において決定し、申請者宛通知する。

- (6)助成金の贈呈
平成21年5月開催の日本女医会総会の席上。
- (7)受賞者の本会に対する義務
平成22年3月末日までに研究経過報告(A4原稿用紙2枚程度)と助成金使途についての簡単な収支報告を提出すること。
- (8)送り先
社団法人 日本女医会
〒150-0002
東京都渋谷区渋谷2-8-7
☎03-3498-0571

編集 後記

まさに秋たけなわのこの時期、本来なら観光シーズンで心うきうきであるはずなのに、世界はもとより、日本中暗いニュースが多過ぎる。

そんな時に飛び込んできたすばらしいニュースがあった。ノーベル賞受賞である。2日間にわたって物理学賞3名、化学賞1名、なんと4名もの博士が受賞したのである。それぞれが数十年の長い努力が実った結果である。

「ローマは一日にして成らず」の言葉通り、長年の研究の積み重ねで成し遂げられた大偉業である。若者たちに大いなる刺激を与えたことは間違いない。最近、自分が年を取ったせいなのか、若い方が目先のことや自分のことのみ目を向けて、先のこと、他人のことへの配慮が欠けているように思えて仕方がない。医師不足や医療関係者不足などもそうしたことによるものと考えられるが、間違っているかな? (秋葉則子)

日本女医会誌

復刊第196号 2008年10月25日発行
編集人 対馬ルリ子
発行人 小田泰子
制作 あづま堂印刷

発行所 社団法人 日本女医会
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山宮野ビル
Tel. 03-3498-0571 Fax 03-3498-8769

http://www.jmwa.or.jp
e-mail: office@jmwa.or.jp